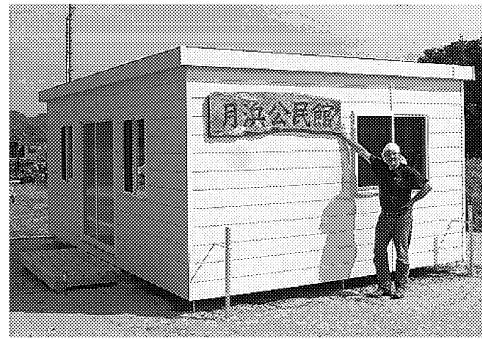


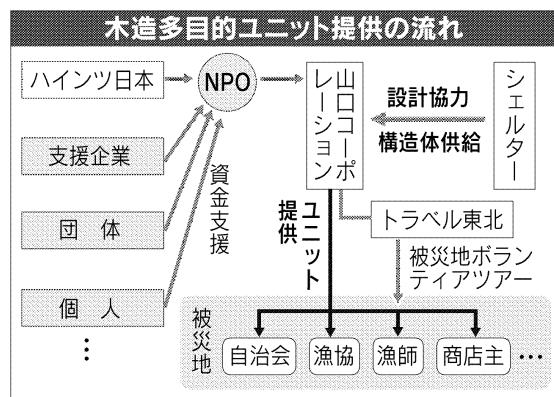
被災地に木造ユニットを



宮戸島に建てられた木造ユニット（宮城県東松島市）

山形県内の2社が連携して集会所などに利用できる木造の多目的ユニットを開発。被災地向けに提供する活動を始める。簡易店舗や収納庫といった仮設住宅に不足しがちな機能を補うことで、生活の利便性向上やコミュニティの再生につなげる狙い。資金支援を幅広く募るとともに、職を失った被災者を雇用して量産を目指す。

簡易店・収納庫に



第1弾、東松島に完成

多目的ユニットは旅行会社、トラベル東北（山形県最上町）の山口ステップ（5層弱）、高さ2.4mとコンパクトで、4人乗り込みで運搬できる。縦や横に自由に連

と名付けた。基本モジュールは幅2.5m、奥行き4.3mで、4棟連結したUBCが完成。地元漁師らが假

東）が「組み立てや移動の容易さに加え、人にに対する優しさも考慮されおり、被災地復興に大きな可能性を持っている」と評価。売り上げの一部

ハイインツ日本（東京・台東）が「組み立てや移動の容易さに加え、人にに対する優しさも考慮されおり、被災地復興に大きな可能性を持っている」と評価。売り上げの一部を寄付する被災地支援の第1弾に決定した。宮城県東松島市の漁村地区に3棟連結したUBCが完成。地元漁師らが假

結ができるので、用途や用いる。

山口社長は今後、被災地に必要なスペースが確保できる。

木村一義（社長）が協力し、梁（はり）や柱の接合に特製金具を使う独自のKES構法を採用。木造ながらクレーンでの吊り上げや移動に耐える。

仮設物なので、本格的な復興計画の策定前でも建築許可が要らず、臨機応変に建てられる。

外資系食品メーカーのハイインツ日本（東京・台

東）はその過程で「仮設住

宅には集会所や収納所、商業機能などが多く生活

の工場（山形県寒河江市）が供給。他の建設部材のプレカットはトラベル東

北の親会社、山口コープレーション（同県最上町）が担う。2007年に廃業した旧山口建設の遊休設備を活用、被災者を雇用したい考え。

資金面は企業や団体、個人などの協力を幅広く

募る。自治体などには無償提供するが、個人には

1棟5万円程度負担してもらいう方針。コストは量産規模にもよるが1棟30

万～40万円程度とみら

れ、差額は企業などから

の寄付で賄う計画。

トラベル東北は被災地

地の需要に応じてUBC

を提供する活動に乗り出

す。構造体はシェルター